

テーマ：景気動向指数（2016年6月）

発表日：2016年8月5日（金）

～C I一致指数は一進一退の足踏みが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

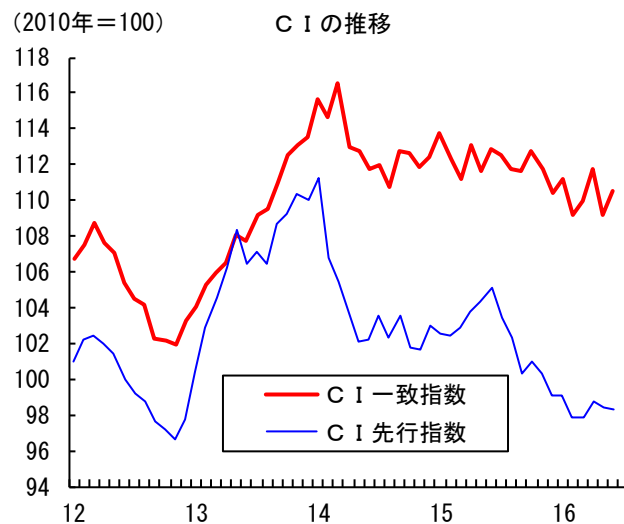
## ○C I一致指数は上昇だが、均せば横ばい圏

内閣府から公表された2016年6月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+1.3ポイントと上昇した。上昇幅は比較的大きいが、5月が▲2.6ポイントと大幅に低下していたため、均せば横ばい圏の動きである。C I一致指数は、引き続き一进一退の足踏み状態にあると判断される。6月の内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数など、生産関連の押し上げ寄与が大きい。

また、6月のC I先行指数は前月差横ばいとなった。先行C Iは昨年夏以降、大幅に低下していたが、16年3月が前月差横ばい、4月が+0.9ポイント、5月が▲0.3ポイント、6月が横ばいと、足元ではようやく下げ止まりつつあるように見える。先行きの景気を占う上で好材料だろう。内訳では、生産財在庫率指数や消費者態度指数のプラス寄与が大きい一方、新規求人数や日経商品指数、東証株価指数などがマイナス寄与となっている。

## ○基調判断は「足踏み」が継続

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが確認できる。



(出所)内閣府「景気動向指数」